





DESIGN *for* FUTURE \_ PART 2



**Nantou City Guesthouse**  
南頭地区ゲストハウス  
中国広東省深圳市南山区南頭古城

右ページ ネリ&フーが手がけた、南頭地区ゲストハウス。中国・深圳市の南頭では、写真奥に見えるような高層ビルが立ち並び都市化が進むエリアと、住居が無秩序に密集する、かつての村落の名残が共存している。右 改装プロジェクトが始まる前の建物。⑧階建ての集合住宅として使われていた。上 地上階から屋上まで続いていた階段室は、周囲の壁を取り壊して拡大。吹き抜け空間から、建物内に周囲の風景や光が入り込む。階段を上りまるとどり高く屋上では南頭地区全体を見渡せるほか、緑豊かな庭園も用意した。

**Neri&Hu**  
ネリ&フー

リンドン・ネリとロザンナ・フーが2004年に上海で設立した建築・デザインスタジオ。世界各国において建築やインテリア、プロダクトなど幅広い分野のプロジェクトに関わる。ポルトローナ・フラウやモーイなど国際的なブランドとの協働も多い。www.neriandhu.com/



建築が重ねてきた記憶をよみがえらせることで、“今”を活性化する

ゲストハウスとして再生した建物

「リサーチとデザインのプロセスにおいて、アーカイブと研究者のスヴェイトライナ・ボイムが提唱したリフレクティブ・ノスタルジア（過去と現在を対立させるのではなく、両者を融和させよりよい環境をつくっていくという考え方）には大きな影響を受けました」とネリは言う。「建物の歴史を、素材など表面的な視点からのみ横断するという考えは捨てました。そうではなく、その建築の過去をよみがえらせることによって私たちが生きている。今の文化を活性化させることを目指したのです」

リンドン・ネリとロザンナ・フーは、建物が立つ場所に受け継がれてきた文化をベースに、プロジェクトの核となる精神を形成していった。

「取り除く」というプロセスが、建物の新たな意味をもたらす

このプロジェクトにネリ&フーが着手したのは、2020年のことだった。

中国語に「城中村」という言葉がある。中国において急速に進む開発のなかで、既存の村落が都市の中に取り込まれ、文字通り、都市の中の村となる現象だ。深圳市南山区に位置する南頭でも、街が積み重ねてきた記憶と、変化を続ける。今の姿が錯綜している。細い道が入り組み、住宅がひしめき合う地域の一角に立っていた集合住宅を、レストランを備えたモダンなゲストハウスに再生させる——このプロジェクトにネリ&フーが着手したのは、2020年のことだった。





ゲストハウス1階に入るレストラン。家具は、すべてネリ&フーがデザインを手がけた。ダイニングチェアはデ・ラ・エスパーダの「Petit 3」、ペンダントランプはステラワークスの「エブリディ」。照明「エブリディ」/ステラワークスジャパン



## 過去の歴史を生きし、新たな歴史を生み出す

を覆うのは、半透明のファサード。宿泊施設として求められるプライバシーの確保と、街に向けた開放性のバランスを実現するために選択した素材だ。刻々と姿を変えていく南頭の景色を楽しむために増設したルーフトップには、彫刻的な「小屋」が2軒。この地域によく見られる、既存の住宅の上階部分に無許可で増築された建物をイメージした。

プロジェクトが開始すると、ふたりはまず建物の構造にメスを入れ、広々とした空間をつくり出していった。「改築プロジェクトにおいては、何かを「付け足す」と同じくらい「取り除く」という行為も重要ですよ」とフー。こうして生まれたのが、かつて階段だった場所を切り開いてつくった巨大な吹き抜けだ。地上階から屋上まで続く、垂直方向に伸びる中庭のような空間によって太陽の光が館内に取り込まれ、階段を上り下りするゲストは街の風景に触れることができる。「取り除くという行為が、必ずしも破壊を意味するとは限りません。それが新たな空間や意味を生み出すことだってあるんです」

南頭地区ゲストハウスは、大都市の中に残された「城中村」を捉える新たな視点を提供する。ネリ&フーのふたりは、最後にこう言った。「都市が重なる日々の記憶が、人々に感知されるだけではなく、それが時代に合わせて更新され、喜びを持って受け入れられることを、私たちは願っています」

